

# 山田みやこの活動報告

令和5年11月18日(土)

## 第10回生活困窮者自立支援全国研究交流会（オンライン）②

人と人が向き合う いのち・くらし・せいかつ

— なんとかなる楽しみながら地域共生社会づくり —

分科会 子ども若者を支援

～制度を超えて子ども若者を支えるために～

困窮世帯の子ども若者や家族を支えていける地域をどのように作って行くのか？

ヤングケアラーと引きこもりの経験者、実践者の話から考えたニーズをキャッチするため

- ・対象を限定せずユニバーサルに捉える視点や制度にないものは生み出す試み
- ・本人の思いを共有するプロセス
- ・感覚的に面白いか

を意識した取り組みの重要性が話題となった。

相談をつないだら終わりではない。重なり合う支援の大切さを確認した。

講師 一般社団法人hito.coto 代表理事 宮武将大さん

（一社）hito.cotoの事業内容は、就労移行支援、不登校・引きこもり支援、居場所活動、家族支援

代表理事の宮武さんは、小6の時勉強がきっかけで不登校になった。8年間の引きこもり生活後、20歳で家族以外の人との出会いや経験を通して、少しずつ心と体のリハビリが行われ社会復帰できた。

2014年に自分と似た不登校の方との出会いから、引きこもりや不登校の支援活動に関わるようになった。

### 1.社会復帰できた理由、要因

- ・生きる事を選択肢が増えた
- ・否定されなかった環境、コミュニケーションの継続
- ・段階的な社会参加、自信の積み重ね
- ・自分のためにではなく、誰かのためにが起点
- ・必要なタイミングでの情報

### 2.不登校・引きこもり支援

既存の制度では対応できない本人や家族等のニーズに対応するため、地域資源などを活用して社会とのつながりに向けた支援を行う。

### 3.どんな支援が必要か、社会につながるためには段階がある

引きこもり状態の時は「頑張って何かを乗り越える」事が難しい。

度重なる失敗、経験不足、自信喪失、自己否定など

### 4.社会とつながるorizuruプロジェクト

- ・家に居ながらにして何かができる作業⇒ホテルの部屋に置くウエルカム折り鶴1羽40円
- ・本人の能力を客観的に判断する手助けになった
- ・社会参加のきっかけ作り

無理なく自分のペースで、社会とのつながりや働く実感を得られる

## 5.家から出られないことから、目的のない外出が出来るようになるまで

スタバ（夜のカフェ）・水族館・登山など外出はしたくないけど行ってみたい

↓

- ・ 約束や目的のある外出の練習  
    フリースペースなど
- ・ 目的のある外出が出来る  
    農業体験・ポリテクセンター・ハローワーク・集団活動（交流を意識）

↓

就職を意識した動き 畑作業・時給支給

## 講師 一般社団法人 子ども宅食応援団 代表理事 駒崎弘樹

**（一社）子ども宅食応援団の事業内容は、「定期的な食の届」をきっかけとし、家庭を見守り寄り添う伴走型支援**

- ・ 農業や企業、フードバンクから寄付された食品を梱包して個別に家庭へ配送を原点に、全国の実施団体間のネットワークを構築し、子ども宅食の導入団体は154団体になる。
- ・ 実際に生活に困難を抱える家庭は、地域の支援サービスにつながっていないが、子ども宅食はつながりにくい家庭とつながっている。
- ・ 食品を届ける活動が家庭の状況を把握し、自然に関係性を構築するための機会になっている。
- ・ 「届ける」という事は、民間・非専門職の参画が大変重要。仕事や義務ではない声かけや見守りの方が警戒されず関わりやすい。

**※事業を通じて、どんな人でも困ったら「お互い様」と、声を掛け合える人間関係に囲まれる地域、社会を作ること**に力を注いでいる。